

【研究主題】

児童生徒の自分らしい未来につながる 「個別最適な学び」の探究

～教科等横断的な視点に立った資質・能力を軸とした単元づくりを通して～
(1年次)



—KEY WORDS—

- ▶ 個別最適な学びのアップデート
- ▶ 学びの必然性と連続性
- ▶ データベース × AIツール活用

【開催形態】

- ① 来校参観 + 後日オンデマンド視聴
- ② 後日オンデマンド視聴のみ

【申し込み】

- ◆ 11月中旬の二次案内でお知らせいたします。
- ◆ 参加費 1,000円 ※開催形態①②ともに同料金です。

【内容】

- ◆ 午前：研究授業、研究概要報告、ポスターセッション
- ◆ 午後：分科会、全体会、講演会

来校参観

令和8年

2月6日(金)

後日オンデマンド視聴

令和8年

2月20日(金)

～3月20日(金)

(予定)

研究授業や講演会などの動画を視聴できます。

◆ 本校研究テーマについての概要、講演会については裏面をご覧ください。

【本校研究テーマについて】

前研究では、「個別最適な学び」の実現を目指し、児童生徒のスタディ・ログを蓄積・共有するための本校独自のデータベース「M-FOCUS」を活用した授業づくりに取り組んできました。本研究では、前研究の成果を基盤としながら、複数の単元を関連性のあるまとまりと捉えて従来の年間指導計画を再整理するとともに、単元ごとの評価やスタディ・ログの蓄積・共有・分析・活用を推し進めることにより、「個別最適な学び」を「点」から「線」へとアップデートすることを目指します。子供理解を深め、児童生徒の自分らしい未来につながる単元づくり・授業づくりの視点をご提案します。

❖ 個別最適な学びを「点」から「線」へ！

📌 取組の重点

💡 教科等横断的な視点に立った
資質・能力を軸に単元をつなぐ

- ▶ 「学びの必然性」や「学びの連続性」を生み出す

📖 単元ごとの評価及びスタディ・
ログの蓄積を着実に実施する

- ▶ 「データベース × AIツール」による
記述データの蓄積・共有・分析・活用

個別最適な学びを
「点」から「線」へ

✅ 目指す児童生徒の姿の実現

【「できた」「分かった」を自信に】
・自己肯定感の向上
・学びに向かう意欲の向上
・興味・関心の広がり



「できた」「分かった」を
自信にして、
学びを日常に生かす
ことができる児童生徒

【学びを日常に生かす】
・生涯に渡って自らの学びを
調整するための素地
・自分らしい未来（ウェルビー
イング）の実現



小学部



中学部



高等部

【講演会について】

学びの必然性を伴った単元デザインから考える
『個別最適な学び』の可能性 (仮題)

講師

弘前大学教職大学院 教授 菊地 一文 様

全日本特別支援教育研究連盟 副理事長、キャリア発達支援研究会 副会長

「これからの特別支援教育はどうあるべきか」東洋館出版社

「確かな力が育つ知的障害教育「自立活動」Q & A」東洋館出版社 など著作物多数



【HP】 <https://tokushi.miyakyo-u.ac.jp/>
【連絡】 022-214-3353 (研究主任：山路)

